

**令和7年度 第1回在宅医療・介護運営委員会研修会報告**  
**『公益社団法人愛知県歯科衛生士会』とのコラボ企画**  
**(地域リハビリテーション専門職介護予防指導者育成事業アドバイザー養成研修)**

日 時：令和7年7月27日（日）9：50～16：00

場 所：愛知県歯科医師会館 403号室

参加者：愛知県栄養士会会員 29名（＋スタッフ8名）

歯科衛生士 25名（＋スタッフ6名） 言語聴覚士 1名

内 容：「在宅における管理栄養士・栄養士の役割 とろみ材の使用実演」

- ・ 歯科で働く管理栄養士の取り組み 管理栄養士 宮部 夏実氏
- ・ 摂食嚥下障害療養者への在宅訪問栄養食事指導 医療法人財団善常会 太田 真実子氏

「在宅における歯科衛生士の役割・口腔ケア実習」

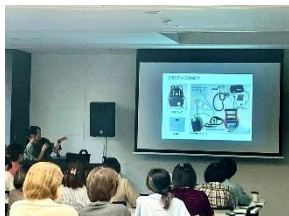
- ・ 口腔ケアの基礎知識 愛知県歯科衛生士会 高齢者医療福祉委員会

講義 榊原 裕子氏

実習 細久保真理子氏

令和7年度第1回在宅医療・介護運営委員会研修会は、初めての試みとして愛知県歯科衛生士会と合同で行いました。前半は栄養士が担当し2人の方から発表がありました。宮部氏からは、歯科で働く管理栄養士の取り組みとして、医療的ケア児に対する訪問栄養指導の3症例を発表して頂き、歯科医・歯科衛生士・言語聴覚士らと連携し対応することで、口腔内の変化や食事内容の変化などの情報を共有する事で、対象となるケア児の日々の成長に考慮した指導に繋げる事ができた内容の講義でした。

太田氏からは、摂食嚥下障害療養者への在宅訪問栄養食事指導を通して、初回訪問時の栄養アセスメント（身体計測・血圧・服薬内容・血液生化学検査・食事摂取状況等）、実際に



使用する訪問グッズの使用の方法、インサートテープ・アディポメーターのデモンストレーションを行いました。また、血液生化学検査値から、疾患名の状態確認、低栄養・脱水状態・誤嚥などの様々な情報を読み取り、栄養診断をして具体的な指導内容を決定していく細やかな対応についての内容でした。また症例を通して歯科衛生士他、多



職種と連携を図り本人の「食べたい！」を叶える食支援について一緒に考える講義でした。

とろみ材の使用実演では、ネオハイトミールⅢを使って、薄いとろみ、中間とろみ、濃いとろみ、炭酸水のとろみの実演を行いました。

後半は歯科衛生士会榊原氏が担当し口腔ケアの基礎知識について、口腔ケア（口腔健康管理）の2つの目的として、一つ目は口腔内全体清潔に保つ事、二つ目は口腔機能を向上させる事を学び、食べる機能に大きくかわかる歯面・歯間・粘膜清掃や義歯の手入れの方法、機能訓練の重要性など「口から食べる」を支えるために栄養士との連携の必要性について詳しくご講義をして頂きました。

口腔ケア実習においては、歯科衛生士会細久保氏からスポンジブラシ・口腔ケアウエット・保湿剤・舌ブラシの使用を実際に体験しました。

今回のコラボ研修会はそれぞれ専門職にとって業務の振り返りや沢山の学びの場となり、交流会では「大変勉強になった。」「連携は大切。」など次回の開催を期待する声も多く聞かれました。

以下交流会で出た意見を抜粋します。

### 歯科衛生士

- ・義歯があわないことが食べづらい→食べられない。
- ・栄養士側の話は知らないことが多い。水分の調整の仕方など新鮮。
- ・口腔残渣はとろみよりゼリーの方が少ないのでは？
- ・インプラント汚れが多く歯周病になりやすい。
- ・食事を食べていなくても口腔ケアしないと汚れている。
- ・義歯を外してしまうのは口腔内乾燥→マッサージをして。
- ・オーラルフレイル予防 機能の維持・口腔体操
- ・口腔衛生管理加算 歯科の指導を施設内に広げていく。
- ・医師・歯科医師との連携がカギ。
- ・歯科受診してもらえない。→地域で訪問歯科をやっている所が少ない。
- ・栄養士の方々も噛むことは全身の機能に繋がっていることは理解している。

### 管理栄養士

- ・発達支援障害児の食形態について→KT バランスチャート・食形態評価。
- ・食事状況について病院から在宅への連携が大事。
- ・在宅で奥さんが嚥下調整食を作りたい。→ケアマネさんとかに栄養士に繋いでもらう。
- ・お楽しみでアイスクリーム→溶かしてとろみをつけ凍らせれば OK！
- ・訪問歯科に繋げる。→ 食と口腔は繋がっていると伝える。
- ・ST・DH の共通点・違う点→ ST：咽頭～食道 DH：先行期～口腔期 ？
- ・グッズ使用して実習が出来て良かった。
- ・共同（歯科・栄養）への動き。
- ・地域のホームページで食形態マップ・嚥下食マップがある。
- ・薬局に訪問看護ステーションから依頼が来る。（3件/月）
- ・栄養士の介入は30分→在宅への介入はハードルが高い。

歯科衛生士と栄養士の交流会では、互いに連携の必要性を強く意識した貴重な時間になりました。今後も多職種との交流の場が多くあることを願っています。

（報告者：小牧 弘江）